

バガヴァン

スリ ベンカイア スワミ

BHAGAVAN SRI VENKAI AH SWAMY



P. スッバラマイア編 渡部英機訳

日本サイババ研究会

P. Subbaramaiah

Copyright 1995 P. Subbaramaiah

This book is produced by the
permission of P. Subbaramaiah
この本の翻訳出版はP. スッバラマイア氏の承認を受けています。
This book is translated into
Japanese and pulished by him
at Institute of Bhagavan Sri
Sai Baba.

スリ ベンカイア スワミ

ある現代の聖者の生涯の抄録

元教師 P. スッバラマイア編集

オーム

献辞

この著作を、私の拙い能力でサマルタ（有能な）サドグルに仕えるこの機会を与えて下さった人間の姿で現われた至高の霊に、最高の畏敬をこめて捧げます。

また、私の家庭神スリ ベンカテスワラ スワミとしての顕現に。

又、私に大学教育をまた生計のために名誉ある教育職を与えて下さった私の父と母と兄に。

又、ゴラガムディのバガヴァン スリ ベンカイア スワミの姿で、栄光あるダータ神の蓮華の御足の許へ私を案内して下さったアチャリヤ スリ E. パラドワジャ グルの蓮華の御足の許に。

又、バガヴァン スリ ベンカイア スワミの蓮華の御足の許に祈りとブージャを捧げるよう私を向けて下さったサイナス（サイババ神）様に。

又、私をその膝に迎え、霊的サダナ（修業）の1部としてその栄光ある神性リーラ（奇跡）を唄うよう鼓舞して下さった主ベンカイア スワミ マハラジに。

祈り

おー主よ、あなた様は全てに行き渡っておられます。

あなた様は、あらゆる生き物の中の推進力の原因であります。

あなた様の御意志に従って、私が行動し、あなた様に気づくようにしてください。

+ この本を信仰をもって読むことの必要性

もし私達が、私達の手をあわせて、神性霊を崇拜し、

私達の口で、その栄光をうたい、

私達の心に、憐れみと真理を感じないならば、

そのような人間の誕生は、母親の子宮に、大きな不面目をもたらす。

プララダ

ここで、神性霊の栄光とは宇宙霊のすばらしいリーラを意味する。サドグルの状態はビシュヌ神、エスワラ神、ブラーマ神のそれよりも高い。スリ ベンカイア スワミは、サドグルとしての宇宙霊の1つの完全な顕現である。私達の友人達と彼の神性リーラの蜜を分け合うことが、私達人間としての誕生の目的を満たす唯一の方法である。でなければ、上に述べられているように、私達の誕生はこの世に無駄な滞在となる。聖者スーカ（シューカ）はパリクシット王にバガヴァータム（偉大な聖者達の生涯）を物語り、1週間内に王にサドガチ（進歩向上、悟り）を与えた。シルデイサイとバガヴァン スリ ベンカイア スワミは偉大な聖者達の生涯を聞いた後でのみこの世を去った。だから、このカリユガの中でバガヴァン スリ ベンカイア スワミのような大聖者達の神性リーラについて考えることは、モクシャ（解脱）に到達するためや日常の問題を解決するための唯一の方法である。

グントウールのS. ラメシュ ババを通してスワミジによって行なわれたパラヤナ ヤジナ（入念な説明をつけて読み上げる儀式）は、スワミジの生涯を信仰をこめて読むことは私達の過去の悪カルマを中和することができ、私達が癌のような望みのない病気を取り除くことができることを示す具体的な証明である。プララダによつて述べられているように、私達の誕生の目的を果たすために、私達はスワミの神性リーラの蜜を分け合いたいと願うものです。

スワミジの生涯

バガヴァン スリ ベンカイア スワミはアンドラ・プラデシュ州ネロール地方、ナグラベラトゥル村の敬虔な夫婦ソンパリ ピッチャンマとペンチャライアに生まれた。彼の子供の頃からの神性リーラは、彼が貧しく無知な人々を救うために人間の姿をとった宇宙霊の完全な顕現であることを確証するものである。

ある時、彼は、自分はピッチャンマとペンチャライアに他の全ての人と同じように生まれたと話した。言い換えると、彼のこの世への誕生は神性をもっていた。このことは、スワミの次のような言葉によって追認される。80才の時、彼は両足が麻痺して歩くことができなかった。帰依者達は、彼に薬を飲むよう懇願した。彼は、「もしそうするなら、私はもう1度（そのカルマを経験するために）誕生しなければならない」と言って拒んだ。

ある時、彼はこうも言った。「海の向こうにも私の視野を妨げる障害はない。だから、私のためには靈的教師は必要ない」彼は子供の頃からオカルトパワー（超能力）を授かっていた。しかし、それらは無知な人々には気付かれなかった。ある時、彼の甥が危険な高熱で苦しんでいた。彼の姉マンガマはわが子の望みを失い、声を出して泣いていた。情け深いスワミはその子の顔の上で手を振って、子供のことは心配いらぬと言った。すぐに、その子は何の薬もなしで回復した。この時、彼は16才だった。

ある時、スワミはラジャバドマブラム（地名）の姉の所に来て、彼女を彼の生まれた土地につれて行こうとした。しかし彼女は、この気狂い少年は途中で自分を捨てるかも知れないと心配した。即座に全知のスワミは、姉の口に出さない思いに答えた。「何ですか、姉さん！私はあなたを途中で放り出すような気狂い少年ではありませんよ」これら全てのことは、彼が子供の頃から偉大な力を授かっていたことを示すものである。

子供の頃から、彼は正しい振る舞いでよく知られていた。彼は遊び友達のアラゆる喧嘩の仲裁をした無冠の王だった。夏、紙屑を食べている牛達を見た時、彼の心はとろけた。彼は即座に牛たちのために頭に乘せていた草を与え、手ぶらで家に帰った。このような憐れみ深い行いのため、人々は彼を気狂いベンカイアと呼んだ。

20才の時、彼は数日間高熱に苦しんだ。その後、彼は幻覚を起こしたか気狂いのような振る舞いをし始めた。彼は日夜「チャカル（ドービ〔洗

濯屋] ヨーガム)、マンガラ(理髪師) ヨーガム、ザッカラヨーガム! ダブダク、ダブダク」と叫びながら街路を走ることがよくあった。

当時、人々は非常に厳格なカースト制に固執していた。彼はドービヤ散髪屋やハリジャン(不可触民)の食器で食べた。そのため、彼は放逐された。近くに逆症療法の病院がなかったので、両親はあらゆる種類の藪医者の治療やタントラ療法を受けさせたが、効果はなかった。しばらくたってそれらの治療を諦めた両親は、彼を自由にさせた。彼は村の周辺の人気がない場所を放浪した。彼は若い娘を見ると、虎を見た少年のように逃げ去った。何日間も彼は家に帰らなかった。母親は彼を捜すため食物の包みをもたせたクーリー(苦力)達を派遣した。もし彼が食物の包みを見るとクーリー達について行き、家に帰った。彼は十分に食べ、母が用意した新しい衣類を着ると、また森の中へ走って逃げた。

ある時、彼は村を出て行き何年間も姿を見せなかった。両親は息子を捜し回り、ついに望みを失った。数年後、再び彼は近隣の村々に姿を現した。しかし、今度は気狂いベンカイアではなくベンカイア スワミと呼ばれた。この時、彼は人間ばかりでなく牛の不治の病を治した。彼は人々に将来の災難を警告し、それから逃れられる恵みを与えた。自分の恵みの印として白い糸切れを与え、人々の首の周りに着けるようにさせた。彼はダルジャンに來た帰依者達のこと、謎めいた伝言を発することがよくあった。そのような言葉を紙に書かせ、恵みの印としてその紙に触れ、それを帰依者に与えた。また、紙に親指の押印をし、それを恵みの印として帰依者達に与えることもあった。

彼はいつも火を携行した。古い縄切れに火がつけられ、どこへ行ってもそれを手に持っていた。頭にはいつもロープの束を、手にはマンタ(小さな土製の壺)とダンダ(棒)を持っていた。多年、彼はラジャパレム近くのベンナル河の土手とソマシラの森を放浪した。彼は1軒の家で食物を得ることにしていた。いつも両手を使って水を飲んだ。水を飲むために器や水差しを決して使わなかった。当時コレラと天然痘が多く、村を襲った。そのような絶望的な状態の時、彼の糸と香料と言葉が人々をその災難から守った。最初、彼はラジャパレム近くのアンカランマボツと言われる丘の上の小屋に寝泊りしていた。彼はオイルランプを燃やし続け夜中ずっとイエカタラ(一弦楽器)を弾いた。次に、コティテータラムのシバラヤムに宿所を移した。そこでマハマントラ「オーム ナラーヤナ アウディナラーヤナ」を唱え、夜じゅう両の手で2つのイエカタラを鳴らした。もし眠りが襲ったら、棘で歯茎を突き刺し口の中の血を水で洗った。彼はマントラジャパに深く没頭することがよくあり、イエカタラの弦が切れたことに

も気付かないことさえあった。

何年間も、彼はソマシラ近くのペンナル河を横切る砂のダムを作ろうと日夜忙しく働いた。帰依者達にも、これは神の仕事であるからダムの仕事を手伝うようにと言った。毎日、誰か彼かがスワミと一緒に全ての帰依者のための食事を用意した。当時、彼の手足は水と濡れた砂に浸けたまま働いていたので傷だらけになっていた。彼は用水路を作り、人間にとっては不可能な、水の流れが反対方向に向くようにした。彼は枯れ枝を使って用水路が河に合流する地点の水の上で火を焚くことがよくあった。彼はその火の両側に水をふりかけた。これは人々をコレラや天然痘や他の恐ろしい病気から救うためである、と言った。また、彼は水1トゥラ（1ルピーの重さ）の価値は3000ルピーであると言った。その頃の仕事では、100万ルピーの収入は全世界の1日の支出と釣り合っていた。

数年後、彼は貧しい人達、弾圧された人達を救うために村から村へと旅した。彼は決して誰の家にも宿泊しなかった。いつも人気のない寺院や村のチャバディや木陰や人の住まない家に泊まった。

彼は非常に珍しい変わった方法で食事をした。食物の鉢を逆さにして大きな木の葉に出した。指で飯を葉の皿の周りの地面に投げた。彼は2度目は給仕を受けた。始めに、右の掌でまず自分の頭にそれから食べ物に触れ、その食べ物はプラサド（供物のお下がり）として家の主人に与えられた。3つ目の鉢の食べ物の小山の中央から彼は少量を食べ、残りは皿の周りに投げた。彼は決して味を気にしなかった。乾燥チリ（辛子）の入ったチャツネが、好物だった。彼は放浪している時、井戸や河でよく水浴した。数多くの悪臭を放つ井戸と池が、スワミが中に入って浸かると浄化された。スワミが干上がった井戸に少量の水を注ぎ入れると、それらの井戸は永久に水で満ちるようになった。

老年になった彼は、異常に熱い水で水浴した。スワミはゴラガムディのサマディ マンディール（墓所）近くのコネル河で水浴した。そのため、この水は彼の神聖な体に触れて聖化にされたので、非常に神聖である。

サマディ マンディールの井戸の仕事は、彼が手で掘りバケツで土を取り除けることで、スワミによって始められた。これは、その村民全体と巡礼者にとって唯一の井戸であり、最大の旱魃の時にも決して涸れなかった。

放浪中、彼はある時期、8年間続けてゴラガムディに滞在した。神聖なドウニ（火）は日夜燃やされた。ゴラガムディ近くの森全体の薪が尽きた。暫くの間、彼はドウニと親指の押印を続けた。このため帰依者達は沢山の新聞紙や白紙やインク刻板を差し出した。彼は帰依者達に、将来親指の

印は何100ルピーにもなるから大切に持っているようにと予告した。今日、スワミの言葉はすべて本当になった。彼の世界と帰依者達の将来に関する伝言は紙に書かれた。例えば、彼はこう書いた。「私達は杓子に触れることなく、作られた食事を食べるだろう」今日、私達が圧力釜で調理する時、その言葉は実現することとなった。

ある時、スワミはアシュラムの土地建物を指差して、これまで14ガータス（世代）の間ぶんぶん匂う食事の大きな山があったと言った。この言葉の中の食事の山とは、彼の常に新鮮な苦行を意味すると考えてよいだろう。この場所は数100年間多数の聖者によって清められ、豊かにされている。その力の結果として、絶望的な病気もこの聖な場所に病人達が滞在することを始めるや否や癒される。スワミが食物を受け取った後方の全域は、今日灌漑施設が高度に発達している。

スワミが砂のダムを作ったところには、今日ソマシラダムが建設されている。このダムは、ソマシラから100キロメートル程離れたゴラガムディ サマディ マンディールへと流れている。彼が早魃期どれ位何度も雨を降らせたか、誰も言えないほどである。彼はハンセン病者の痛みと苦しみを自分の体に受け取り、その人達に救済を与えた。多くの人々が彼の恵みによって飲酒の悪癖を取り除くことができた。彼のすばらしい奇跡をみてみよう。

死に勝つ

スワミは1982年8月24日、マハサマディを迎えた。しかし、1986年9月16日に彼はビジャヤナガラムの私の友人宅に行き、食べ物を求めた。友人はシルディ サイババの熱烈な帰依者だった。その頃、スワミは灰色の頭髪で、膝までのドーチを身に付け、肩に小さな白いタオルをかけ、手に杖をもっていた。その時、友はスワミのことは何も知らなかった。彼の母は木の葉の皿でスワミに食べ物を施した。スワミはその食べ物を牝牛に与えた。彼はラサム（砂糖水）をコップ1杯のみ、自分の食欲は満たされたと言って立ち去った。彼の前で、母親は大きな至福を味わった。彼女はそのことを、少し後家に帰ってきた息子に説明した。その訪問者が牝牛に食物を与えたことから、友は彼をシルディサイの写しであると叫び、町中彼を捜したが見つからなかった。1週間して、偶然アチャリヤパラドワジャ著「アヴァドータ リーラ」が彼らの家に届いた。

その本の中のスワミの写真を見て、母親はあの日牝牛に食物を与えたのはこの人物であるとはっきり言った。スワミの外見と言葉遣いの描写は、

母親の話と一致していた。友人はスワミに、自分の家をもう1度訪問し自分を祝福して下さいと祈り始めた。

再び1986年10月12日12時、スワミは玄関の地面に座っていた。友人は自分の眼が信じられなかった。直ちに彼はスワミの前にひざまずき、家の中に入って下さいと懇願した。しかし、スワミはきっぱりと断った。スワミは差し出されたお菓子を、そこに集まった全ての人達に配った。彼はカレーを食べ、パヤサムを飲み、立ち去った。その日からずっと、ビジャヤナガラムの大勢の人々がゴラガムディのスワミのサマディを訪れるようになった。

もう一度、私の友はスワミに3度目のダルシャンの恵みを求めて祈り始め、そのために新しいベッドシートを用意した。1986年12月12日、慈悲深いスワミは彼の家にも3度目の訪問をした。友の隣人達皆の前で、スワミはベッドシートを受け取りミルクを飲み、立ち去った。こうしてスワミは、彼がイエス・キリストのように時間と死を超越していることを証明した。このような大聖者達の場合、肉体を脱ぎ捨てることをマハサマディを迎えたと言われている。

同じく1985年5月、スワミは10分間サマディ・マンディールの3人の婦人の前に現われ、姿を消した。今日までに、スワミが肉体の姿でダルシャンを与えているとの数多くの出来事が報告されている。

彼は、太陽と月が存在する限りこの世にいると約束した。

マハサマディ以前の経験

J. P. ペンチャライア (イエッラバリ、ナグラベラトゥール〔スワミの誕生地〕近く)

私の兄24才のJ. ベッタ ペンチャライアは小学校の先生だった。彼の両手両足と声が麻痺する病気になった。彼はベッドで自分の用まで足した。名高い麻痺専門医も彼の声さえ回復できなかった。このような状態に困惑した母親は、慈悲深いスワミに兄の治療を請い求めた。スワミはこう言った。「母よ、ビルパドゥ ミツタルのウリンドラの木の下にマンゴーの種が1つある。そのマンゴーの種の粉を息子に飲ませなさい。そうすれば、彼はよくなるだろう」母は私に、ビルパドゥ ミツタルでその種を拾ってくるようにと言った。私は母の無知と気狂いスワミの法螺を笑った。あんな深い森でマンゴーの種を捜すのは容易なことではなかった。そのため、私達はその話を忘れてしまった。

2ヵ月後、私達は兄を治療のために担架でビルパドゥ近くのバラジベットに連れて行こうとした。それは暑い夏の日のことだった。私達はビルパ

ドウ近くの木の下に休息しようと立ち止まった。父は用便に行き、ウリン
ドラの木の下にマンゴーの種を見つけた。即座に、2ヵ月前にスワミに言
われた助言のことが、父の心に閃いた。父はその種子を拾い、私のバラジ
ベットへ行こうとの意見にも拘らず村に引き返した。私達はスワミジの助
言の通りにその種の粉を兄に飲ませた。翌朝、私は兄が歩いたり大変元気
になり、祈りを捧げているのを見て肝を潰した。

この体験で、私の読み書きと科学的知識による自惚れ心は洗い流された。
私はスワミの許に行き、自分のこれまでの見当違いの発言を、心の底か
ら後悔し、スワミの前に跪いた。

1953年、ボーインドラ ナラサンマは大変金持ちだったので、彼
女の家はナラサンマ サンスタンと呼ばれていた。息子コンダレディはお
よそ60才で3人の娘に恵まれていたが、男児はいなかった。不運にも、
1年内に彼女の全ての富は樟腦のようになくなり、彼女は貧乏人になっ
てしまった。彼女の牛の群れと羊と山羊の群れの全てが死んでしまった。農
作物はよくできなかつた。彼女達は、このような突然の予期せぬ事態に気
が転倒してしまつた。ある日、その老夫婦はスワミをピクシャ（布施）の
ために招いた。スワミは門の前で立ち止まり、こう言った。「ほっ！私で
さえ悪魔の熱によってこのように燃えそうなのに、どうしてあなた達はそ
れで生きていられるのか？ほっ！もし私がここで食べたなら、多くの時を
過ごし多くの困難を受けねばならない。いやいや、私達はここで食べるこ
とはできない」私（J. P. ベンチャライア）はスワミに哀願した。「ス
ワミ、もしあなた様が彼らを救うことを拒むならば、誰がこの世で彼らを
救うことができるでしょうか？おー慈悲深い主よ！どうか彼らの食物を食
べ、彼らを悪運から救い出して下さい」慈悲深いスワミは了解すると、彼
らの邸に入った。

スワミジは葉の皿の食物を食べると、正午から夕暮までその家の周りを
回り始めた。夕方、彼は2、3口の食事を家の各隅に投げた。彼の目は燃
えている火のようで、獅子のように吠えて、「行け、立ち去れ！」と叫ん
だ。見ている人達皆は恐怖に震えた。すぐに、燃え盛る炎が、建物の北東
角の肥やし壺から跳び上がった。その炎は空中を踊りながら遠ざかり、見
えなくなった。村人達全員は、その燃え盛る炎で自分達の家が焼かれはし
ないかと心配して、大声をあげた。しかし、そうはならなかつた。スワミ
は息を切らせて倒れた。暫らくして、スワミは意識を取り戻し、こう言っ
た。「これからは、もうあなた達は大丈夫だ。ブラーマ ラクシャーシ（
ブラーマ悪鬼女）の髪の毛は私の手の中にある。恐れることはない。それ

はこの地方には決して来ないだろう。口髭があなたの胃の中に生えるだろう（あなたは男児をもつこと意味している）」

その60才の婦人は妊娠し、1年以内に男児を生んだ。その後、彼らは金持ちになり栄えた。そのような偉大なスワミの奇跡を目の当たりにし、偉大な聖者を持って成す家の主人となるとは、何と彼らは幸運であることか！今日でも、スワミの名はその村々の人々の心に不思議な影響力をもっている。

慈悲深いスワミの心は、日照りの間まぐさも水もないもの言えぬ動物達の有様を見て、バターのようにとろけることがよくあった。

焼け焦げる程に暑い夏のことである。長い間雨が降らなかった。牛達は水と秣を求めても得られず死にかけていた。私達は柚子（ライム）の木を命を救うため、最も深い井戸から水を汲もうとしている牡牛達の苦しみを説明することはできない。そのような焼け付くような真昼、スワミは木の下ドウニ（焚火）のところにいた。チャラ シャンカル レディと彼の牡牛達はライム畠に水を汲んだ後、家に帰ろうとしていた。レディはスワミに訴えた。「スワミ！もの言えぬ動物達の運命を見てください。秣と水なしで彼らはどれほど生きられるでしょうか？雨が降らなければ、どのようにして私達は生きて行けるでしょうか、スワミ？」空の腹と汗だくの牡牛達を見て、スワミの心は融けた。彼は見上げると、「後少し待ちなさい」と言って、ドウニの仕事に没頭した。全く驚いたことに、レディが食事をすませるや否や雨が降り始めた。数時間内に全ての貯水池は一杯になった。シャンカル レディの他は誰も、その雨がスワミの恵みによるものであることを知らなかった。スワミの自然に対する偉大な支配力はそのようであった。

スワミの驚くべき治療の力

グンダラ マライア（ティッカラパル、ベンカタチャラム マンダル、ネロール地方）

当時、スワミの名声は今日ほどには広まっていなかった。スワミの糸と香料は、苦しんでいる貧しい人達と牛達の健康がすぐれない時の唯一の支えだった。ある日、私達はそのアシュラムを改修していた。私達は籠とロープを使って石を井戸の中に下ろしていた。どうした訳か、籠から石が滑り落ちて井戸の中に落ちた。それが最初の人肩に当たり、2番目の人の腰に当たり、3番目の人の足に当たった。彼の足の筋肉は長さ12インチ深さ半インチに裂け、ひどく血が流れ始めた。「死ぬ！死ぬ！死ぬ！」の

叫び声が、井戸の底から聞こえた。やっとのことで、怪我人は井戸から引き上げられた。スワミが走ってきて傷口に触れた。彼は空を見ながら何かヒューと鳴る音をさせ、「アッヤ！、それはあなたに害はない」と言った。夕方までに傷の4分の3が癒えたのは予想外のことだった。3日目には、何も薬を使わなかったのに、傷は全く跡形もなくなっていた。スワミの驚くべき力はこのようであった。

マハサマディの後

スワミのマハサマディ後の帰依者達の体験は、物質主義者や無神論者や信仰のない人々の目を見張らせるものである。これは信仰をもっている人達が不屈の信仰をもってサダナ（靈性修業）の道を歩むようにとの戒めととれる。

サドグル（真の靈性指導者）は足の悪い者に丘を越えさせ、口のきけないう者に全能の神の栄光を唄わせることができると言われている。しかし、サドグル ベンカイア スワミは目の見えない人に視力の恵みを与えた時、少し多くのことをした。

クドウムラ ジャヤンマの家はネロール、ストーンハウスペット、ピジヤラクシュミ タルキーズの北へ30軒後方にある。彼女は4人の娘と1人の息子を食べさせるために、家々の門から門へと売り歩く花売りである。およそ3才の息子が赤痢に罹っていた。3ヵ月間の逆症療法にも拘らず、息子はいつも目を閉じて寝たきりになっていた。彼女は、息子は下痢による衰弱のせいで目を瞑っているのだと思っていた。息子はくさい臭いがし、骸骨のように痩せていた。ある日、母親が天花粉をつけていた時、分厚い角膜液の玉が幼児の目から下に落ちた。

眼科医は検査して、両目がウイルス感染で完全に損傷を受けていると言った。両の眼球は黒い部分がなく全く白かった。加えて、両目には小さな白い色素の固まりがあり、幼児は角膜液がなくなっていた。医者はこの子をマドラスに連れて行くのは金の無駄だとまで言った。悲しみに打ちひしがれた母親は、4日後に再び同じ医者を訪ね、再検査を依頼した。医者は母親の過失を叱り、送り返した。

隣人パツプ セシャイアの助言で、彼女は子供をゴラガムディに連れて行った。そして、20ルピーの値の樟脳を供えて5日間夜スワミのサマディに寝ますと、スワミジに誓いを立てた。何という驚異だろう！次の土曜日までに子供の両目は視力を取り戻した。2ヵ月間患っていたその子の赤痢は、完全に治った。このように、彼は1つの羊を自分の囲いの中に入れ

、愛と信仰で祝福したのだった。視力が、少しの薬も用いることなく回復されたことは、注目すべきことである。

イラガ スリデーバンマ、ラマナイアの妻（ネロール、北ベンナル橋、貯水タンク・ベンカテスワラブルム）はこう報告している。

私の独り息子インドラ バブは1989年のディワリ祭までに3才位になっていた。彼はその日は元気だった。ディワリ祭の日から、5日間高熱を出した。5日目に両足は感覚を失い、足を伸ばすことができなくなった。ネロールの医者達はポリオであると診断し、治療のためマドラスに行くよう勧めた。最新の治療で数千ルピーが使われたが、効果はなかった。大便をする間、彼の足は体の重みに耐えられなかった。そのため、私達はその間息子の腋の下に手を入れて支えてやらねばならなかった。私は悲しみに打ち拉がれ、食事も咽を通らず、眠ることもできなかった。神だけが息子の窮状に心を痛める私の苦しみを覚えておられた。その頃、私はスワミのことを聞いたことがなかった。

兄は、バガヴァン スリ ベンカイア スワミだけが息子を救うことができると請け合った。私はスワミの写真の前に跪き、長いこと泣いた。

気持ちが正気になった時、私はスワミに花輪とご飯を供えますと誓い、息子に足を与えて下さいと心から懇願した。その夜、私の夢で、医者が注射針を息子の両足に刺し、医療器具をもって立ち去った。翌朝、全く驚くべきことに、息子は歩き始めた。私はその時の喜びを説明することができない。

息子は歩いたが完全には治っていなかった。私はもう1度、涙を流しながらスワミに訴えることを始めた。ある日、夢の中で、老人が息子の背を軽く叩いていた。そして彼は息子に、自分の腕をもって歩きなさいと言った。翌朝、息子は上手に歩き始めた。私はゴラガムディで40日間スワミに仕え、誓った通り花輪とご飯を供えた。私は生涯ずっとスワミに大いにお陰を受けている。

信仰は山をも動かす。グルや神へのそのような強力な信仰心は過去生に為された莫大な功德によってのみ可能である。ここで私達は、スワミが私達を、彼の伝道の宣伝手段として用いていることを知るのである。

テナリ コダンダ ラマイア（ネロール地方、マヌボル マンダル、バドウェルP. O.）はこう書いている。

1986年、私は心臓発作のせいで昏睡状態になり、A. P. 州ネロールのシンドゥ療養所に入れられた。2日目に、私は意識を取り戻した。1

週間の治療の後、医者は私の病気が重篤であったので、手術のため私をマドラスに行かせた。マドラスに行く途中、兄は私をゴラガムディに連れて行き、私達はサマディ マンディールに1晩泊まった。ドクター ガネシシュは、「心臓切開手術をしなければ生存の望みはない」と言った。そのため彼は私達に、8000ルピーを直ぐに支払うよう求めた。私は率直に手術を受けることを断り、薬での治療を依頼した。医者薬で12日間治療して退院させた。医者こう話した。「心臓の2つの弁が完全に損傷しており取り替えが必要です。いつひどい心臓発作が起こるかわからない。時には、緊急注射をしなければならないから、直接管理下にいななければならない。あなたは入浴設備のある部屋で完全休養をとらねばならない。2、3歩も歩いてはいけない」

私は家に帰り、1週間に1度定期的にスワミのサマディのダルシャンを受けに行くことを始めた。そして、スワミに私の全ての重荷を任せ、ゴラガムディのスワミのダルシャンを受けるために毎週10キロメートル歩くことを始めた。最も驚くべきことは、毎週10キロ歩いたにも拘らず、私は医者忠告されていたようなどんな心臓病も起こらなかったことである。

3ヵ月後、私が検査を受けにマドラスに行くと、例の医者は私が歩いていることを不思議がり、私の奇妙な行動に腹を立てた。再び彼は私に処方箋を与え、注意してベッドに休むようにと警告した。

この時迄に、私は毎週歩いてゴラガムディのスワミのダルシャンを受けに行くことに一層熱心になっていた。私はスワミの恵みによってのみ心臓病にならなかったのだとはっきり分かった。そのため私は、今後はどんな薬も飲まずに、毎週スワミのダルシャンを受けるために歩いて行くことを続けるとスワミに誓った。

2ヵ月後、私は見えなくなった水牛達を捜すために1日20キロを4日間続けて歩かねばならなかった。しかし、心臓病は全くなかった。

私は2度目の検査を受けにマドラスに行った。医者は私が90%治っていることに満足し、同じ薬と休息を続けるようにと言った。彼は私が錠剤をまとめたものを全て見せ、この3ヵ月間全く薬を飲んでいないと言うとびっくりした。治療と休息なしの治癒は、医者にとっては不思議なことだった。医者は、私がスワミのダルシャンを受けに行っていることを聞くとスワミの偉大な力を確信した。

2週間後、夢の中でスワミがこう言った。「私はあなたを宣伝のための道具として使っている。あなたは隣の村々の人達にあなたの経験を知らせなさい」そこで、私は自分の驚くべき体験を書いたパンフレットを配った

。更に、自宅で40日間アカンダナーマジャバとバジャンとドウニを昼夜行なった。その間、私は何の前準備もなく、どのようにして大規模な食事の施しをすればよいか分からなかった。ところが、訪問者達全員が自発的に、自分達の費用で全てのことを行った。それは全てスワミの恩寵によって、彼の伝道の1部として行なわれたのだった。私達は、彼の命に只従うだけである。

私達は前生のつながりに応じて、相応しい時にサドグルに引き付けられる。

私の友人の細君は最近7年間、出産時に始まった出血に苦しんでいた。彼女はひどく弱り、悲しみに打ち拉がれていた。夫妻はあらゆる名高い医者にかかった。しかし、誰も病気の原因が分からなかった。ハイデラバードの専門医達は、治療費は見当がつかず、もし治療を始めたらいつまでも続けなければ全ての治療は無駄になると話した。彼らは治療を始めるべきかどうか板挟みになった

ある日、彼女の友人の一人が彼女にバガヴァン スリ ベンカイア スワミに関する小さな冊子を与えた。その本は非常に興味深いものだったので、彼女はそれを何度も読んだ。その時、スワミが彼女の心から彼女にこう話した。「もしあなたがここにいるなら、どうして私はあなたを治すことができるでしょうか？ゴラガムディに来なさい。私はあなたを治しましょう」彼女は本の中のスワミの写真に心からプラナム（礼拝）を捧げ、「スワミ！私は7年間苦しんでいます。どうして私がゴラガムディに行くことができますでしょうか？もしあなた様が今夕迄に私を少しでもよくして下さったなら、ゴラガムディにあなた様のダルシャンを受けに行くことを約束します」と懇願した。

その夕までに、全く驚くべきことが起こった。出血が全くなくなった。彼女は7年の間このように出血が完全に治ったことはなかった。その大きな嬉しさに、彼女は夜じゅうスワミのことを祈ったり話し合ったりして過ごした。1週間の観察後、彼女達はそれをスワミの恵みであると確信し、ゴラガムディのスワミのサマディ マンディールを108回廻る礼拝を捧げた。こうして、彼女達は相応しい時に定められたグルに遇ったのだった。

トグル ベンカイア（鉄道郵便運転手、大統領賞受賞者、ボゴル、ピトラグンタ、ネロール地方）

私の友人は巡礼に出かけ、大変長い間もどって来なかった。私はゴラガムディに来て、スワミに私の友人を家に送り帰して下さいと祈った。その夜、夢の中で友は、まもなく家に帰ると私に話した。リシケシにいた友は

その夜、家に帰りたいたと強く思い、家に帰ったのだった。

1989年2月2日、私はプラヤグでのクンバメラへの旅の後、ゴラガムディに来た。その夜、私はスワミが寺院のシータラーマ神像にアラチ（樟脳を燃やして振る礼拝）を捧げている夢を見た。彼は私にアラチの皿にコインを入れるように言った。スワミは私にマントラを教え、その意味も説明した。彼は更に私にドウニの近くで寝るよう命じた。このように、慈悲深いスワミは私に目標と道を示し、いつも導いて下さっている。

ある日、私はスワミのスプラバス（教え）カセットを私達のラマラヤ聖職者に利用するように渡した。彼はスワミのことについて何も知らなかったもので、カセットをかけなかった。スワミは彼の夢で、朝の時間にカセットをかけるよう命じた。

1991年、何かが私の背骨に起こり、頭や首を回すことができなくなった。ベッドに寝ている時はどちらにも寝返りできなかった。ハイデラバードの専門医は、手術が必要であり、そのためには4万か5万ルピーを要すると話した。その手術は病人が歩けない時にのみ行われるものだった。私はゴラガムディに来て、スワミに祈った。その夜、スワミはドリルで私の頸骨に小さな孔をあけ、孔の近くを押すよう私に言った。歯磨きのような物質が2度出た。翌朝には、私はよくなっていた。

スワミジは私が祈った時ばかりでなく、私が彼を呼ぶのを忘れた時でも反応される。日夜、彼は私達の幸せを守るために気をつけて下さっている。ある時、彼はこう約束した。「私は糸が切れない限り、あなたと一緒にいるだろう」ここでスワミが言っている絆の糸とは、何だろうか？「彼は全ての生き物の中にいる」との不断の思いと、そのような理解をもった他の生き物に対する私達の態度が、その切れない糸である。スワミのことを何も知らない全くの見知らぬ人達が、スワミによって救われるという数多く出来事がある。その後、その人々はスワミの強い帰依者となった。

ラッカクラ クリシュナイア（薬剤師、クルル〔PO〕カルボイ マンダル、ネロール地方、A. P.）は、息子をマドラスのアポロ病院に入院させたが、こう書いている。

私の息子スリーニバスルは元気で健康だった。1987年10月17日午後3時、彼は家でチャパティを食べ、頭痛を訴えて吐いた。更に、引きつけを起こした。直ぐに私達はカルボイの療養所に彼を入れ、生理的食塩水を与え、注射をしたが効果がなかった。翌日、私達は彼をネロールの小児科医マクリシュナ レディの療養所に入れた。3日間の治療後、彼は私に息子をマドラスのアポロ病院に入院させるように言った。私達がアポロ

病院に入院させるためマドラスにつれて行く迄に、息子は振動のせいで苦しみだした。X線撮影と血管造影検査の後、医者はさっそく手術のために巨額を支払えるかどうか尋ねた。私は、N. G. O. であるのである程度の額は支払うことができると答えた。医者は私の同意なしに息子を退院させ、公立病院に行かせた。私達は入院後2、3時間も公立病院にいたことができなかった。私は息子をタクシーでネロールに連れ帰り、プラバカール ナイドゥ・ラダ病院に入院させた。

医者はそのような息子を動かしたと私を叱り、治療するためピサカパトナムかハイデラバードに行くように言った。ネロールで2日間休んでから、再び息子は10月23日にマドラスのアポロ病院に入った。1万ルピーもする2度目の全体X線と血管造影検査にも拘らず、医者達は病気に正しい診断を下すことができなかった。医者は脳手術が必要で、3、4万ルピーかかるかも知れないと言った。私は、手術をしないで仮令7万ルピーかかろうとも薬で治療してほしいと頼んだ。その時まで、彼らはその病気に関して特別な考えをもっていなかった。

1987年10月26日の夜、彼の祖父が息子の夢に現われて、大丈夫だと言った。実際は、彼はよくない状態だった。翌晩、私の夢の中で一人の老人が、息子は大丈夫だと言った。しかし、本当は息子の状態に改善は何もなかった。日毎に彼は段々弱って行った。次の夜、私の夢にバガヴァン スリ ベンカイア スワミが現われ、「少年は大丈夫だ。彼を病院に入れておいてはいけない。すぐに家に連れて帰りなさい。私はペンナ バドウェル（多年スワミが苦行をした私達の村の近くの場所）にいる。そこに少年を連れてきなさい」と言った。夢の中のスワミは、私が10年前にダチュールで見たのと同じ姿だった。

翌朝、医者達全員薬会議を開き、この病気について話し合った。最新の検査法によって、彼らは息子は完全に健康であると決定し、息子を退院させた。その日から、息子は元気になった。私達は息子をスワミの指示通りにペンナ バドウェルに連れて行った。1987年12月から88年1月の間、息子はマドラスで検査を受けた。何も問題はなかった。息子は89年3月にS. S. C. 公募試験に合格した。

この危機的な時に、私の全ての注意は医者達の方に向き、神やスリ ベンカイア スワミの方になかった。それは私の職業が薬剤師だったからだった。しかし、慈悲深いスワミは私を救いに来られ、私がダチュールで10年前に捧げた小さな奉仕の故に、息子を救って下さったのだった。「たといあなたが私を見捨てても、私はあなたを見捨てないだろう」とスワミは言われた。マハサマディの後でさえも、彼はなお生きていて、その約束

の言葉を守っている。だから、私の全ての兄弟姉妹達へのお願いは、ゴラムディのスワミのドゥニ（火）とサマディを、たとい私達がスワミに解決して貰うような問題をもっていなくても礼拝することである。それは神への無私の奉仕となるだろう。スワミの名でカカバリに多くの食物を施さない。全ての生き物の中にスワミを見付け、敬意をもってふるまいなさい。このことは、私達にスワミの永遠の守りを齋すでしょう。

スワミは私達に、サティア（真理）とダルマ（正しさ）を守り続けるようにと言われた。私達はスワミに誓ったなら、延期することなく正しい時にそのことを果たさねばならない。もし私達が約束を守らないならば、きっと困ったことに直面するだろう。ここに、ブドゥムラ スワミ レディのそのような1例がある。

1987年、私の息子22才のブドゥムラ シバ レディは40度Cの高熱と引き付けに苦しんだ。彼は口から唾液を出していた。食欲もなかった。両目は浮き上がっていて、正気でない言葉を発した。私達は逆症療法の治療に6000ルピーを使ったが、効果はなかった。友人の助言で、最後の手段としてゴラガムディに来て、スワミに、もし息子が元気になったら116ルピーを差し出しますと誓った。3日以内に、息子は完全に回復した。

私はゴラガムディに行って誓いを果たす日を定めた。しかし、不運にもハイデラバードに行かねばならなくなった。私はスワミに誓った約束よりも自分の個人的な仕事を大切にした。その日から、息子は再び病気になった。私はスワミへの誓いを果たすことを怠った自分の所為であることを悟った。すぐに、私は息子と一緒にゴラガムディへと向かった。ゴラガムディから10キロのネロールに来た時、息子の状態は非常に悪くなった。2日間、私は治療のために彼を療養所に入れていたが、状態は一層悪くなった。そのため、私は重病にも拘らず息子を思い切ってゴラガムディに連れて行くことにした。再び大きな奇跡が起こった。私達はその神聖な場所に足を踏み入れた途端、息子の全ての苦しみは魔法の呪文にかかったように無くなった。私はスワミが、約束を守るよう私に催促したのだったことに気づき、私を許して下さいよう請い願った。

ブサラ ジャヤンマ（アートマクール、ネロール地方）はこう報告している。

1985年、私は虫垂炎手術を受けた。86年、ひどい腹痛のため、腹部手術を受けた。2ヵ月後、腹痛が再発し、この時までには腹側部に大きな腫物があることが触ってわかっていた。医者達は3度目の大手術は危険で

あると言った。私はスワミの蓮華の御足に全てを委ねた。徐々に痛みは鎮まり、私はスワミのサマディを108回廻ることができた。私はゴラガムディに40日間滞在した。ある日、私は帰依者の一人カリ ラマスワミに自分の苦境を説明した。29日目に、ラマスワミの夢の中で、スワミが私の腹を手術し、腫物を搾り取っていた。4日以内に、私の腫物全てはなくなった。今日まで、私は健康のままである。

1.6才のSk. マスタン (第10学年生、カツバディバリ、シダプラム マンダル、ネロール地方) はこう書いている。

1987年10月、私は高熱と頭痛と咽から胸にかけてのひどい痛みに苦しんだ。嘔吐のせいで食べ物は少しも胃に残らなかった。その結果、骸骨のように痩せて体重が減った。2ヵ月間、私はネロールの逆症療法を含めてあらゆる治療を試みたが効果はなかった。ある日、私達の村の老婦人が、バガヴァン スリ ベンカイア スワミに健康を祈るよう私に助言してくれた。私達はスワミの写真を持っていなかった。そのため、母はスワミの名でアガルパチ (線香) を灯し、もし私の体がよくなったらダルシャンを受けにゴラガムディに私を連れて行きますと誓った。何という驚きであろうか! 5分以内に、痛みは全く消え、私は普通に食事をすることができた。

誓った通り、私達は翌朝ゴラガムディへと出発した。私達はバス道に出るため、5キロを歩かねばならなかった。私は弱って歩けなかったので、父と母が私の腕をもってゆっくりと村の外れに連れて行ってくれた。私達はスワミに、誓いを果たすため自分達をゴラガムディに連れて行って下さいと祈った。私は午後までに誰の助けもなしで5キロの道を歩いてゴラガムディに着いたが、その力がどこから来たのか分からない。その日から、私は暇を見付けてはスワミに祈り礼拝し、スワミの名を唱えることを始め、余暇には遊びや友人達を避けて誰もいない所に閉じこもり、自分の歌でスワミの栄光を讃えた。6ヵ月後、怠け心が私の中に忍び寄り、友人達と遊び始めた。ある日スワミが夢の中で、私に熱心に忠告した。「何ということか! 必要なことが終れば、それでいいのか?」その忠告で、私はまどろみから目が覚め、熱心にサダナを始めた。

今年、私は村の方針で4年間途絶えていたモスリム聖者の旗行進をやろうと思った。私は寄金も始めた。この段階で、多くの人達が私に、その頃の暴動を恐れ、そのようなことをしないよう忠告した。私はそのことに決断を与えてくださいとスワミに祈った。慈悲深いスワミは夢の中で、こう言われた。「どうしたのか! 君は私の力を知らないのかね? なぜ恐れるの

か？続けなさい。私はここにいる」私は進めた。全ては順調に平穩に進んだ。後日、悪名高い酒飲み達がその日は酒を飲まなかったことがわかった。

翌日の午後1時、私が眠っていると、異常に長い足をした年寄って痩せた男が私の家に来た。彼は母が差し出した食べ物と飲み物を受け取るとを拒んだ。彼は母から少しの煙草と50パイサを受け取ると、後退りした。母と隣の女性達は彼の腕をもって通りに連れ出した。彼女達が腕を離し、振り返ると、彼は消えていた。私は目を覚まし、村中を探した。誰も彼を見た者はいなかった。このように、彼は私の活動と村全体に祝福を与えて下さった。

ある夜、サトサング（集会）が、私の藁葺きの家で行われていた。ひどい雨で、雨漏りがした。帰依者達全員が家の中であわてた。私はスワミに、「慈悲深いスワミ！もしあなたが本当に私達と一緒にいるのであれば、家は今後雨漏りしないはずですよ」全員が全く驚いたことに、その瞬間から、外では雨が降っているのに、雨漏りが止まった。藁葺き家では、外の雨が止んだ後でも、暫くの間雨漏りがするのが普通であるのに。

ある日、私はベランダに座ってスワミの伝記を読んでいた。村の繁殖用牛（牝牛）が牝牛を追い掛けてきて、私の家を横切って走っていた。私はスワミに祈った。「スワミ！もしあなたが全ての生き物の中にいるのなら、この牝牛は半時間以内に返ってきて、暫くここに立っている筈ですよ」私が全く驚いたことに、数分内に牝牛は牝牛を離れて、まっすぐ私の家の中に入り、私の前に立った。牝牛は私の与えたまぐさと水を飲むと去って行った。このように、もう1度スワミは全ての生き物の中にいて私と一緒にいることを証明したのでした。

オーム スワミーエ ナーマハ

スワミの言葉

- 1、げっぷを出している人ではなく、空腹な人に食物を食べさせなさい。
- 2、あなたが何を望もうと、もし十分な信仰をもってここに来るならば、叶えられるだろう。
- 3、ベンカイアは全ての生き物達の中にいると思いなさい。
- 4、たとえあなたが私を見離しても、私はあなたを見離さないだろう。
- 5、あなたがマイソールのマハラジャ（王）のダルシャンを受けて得るものは何ですか？あなたは、あなたが蒔いたものを刈り取るのです。

- 6、私は人の信仰に応じて応答するでしょう。
- 7、私は自分の羊が何千頭の群れの中においても、選び出すでしょう。
- 8、全てに対する平等な愛は、あなたを神に気付くことができるようにするでしょう。
- 9、私は、私の名で1口の食べ物を与えたり持ってくる全ての人の幸福の責任をもつ。
- 10、ある帰依者がマントラを求めた時、スワミは、「マントラもタントラもない。ピチャラ（識別力）をもって進みなさい」と言った。
- 11、もし僧侶がダルマ（正義）を固執しても、偉大であることはない。もし家長がダルマに固執するならば、それは偉大なことである。
- 12、私達は利益を得るために金を貸す時でも、ダルマを行うことに固執すべきである。
- 13、私達は気高さと簡素さとサドグルへの奉仕を達成しなければならない。
- 14、あなたが4分の1ルピーを盗むならば、10ルピーを失うだろう。
- 15、もし私達が利益の分け前を望むならば、私達はその罪をも分かち合うべきである。
- 16、他の人達に立ち去るよう求めるよりも、私達が立ち去る方がずっとよいことである。

私は英語を十分自由に使うことができないけれども、私のサドグルの栄光を歌うことを控えることはできない。私は博識の学者達が要点を受け取って、文章上の全ての誤りを無視して下さるようお願いしたい。私は、優しい父親のようにスワミが喜んで私の軽口を聞いて下さり、それ故スワミはこの仕事の手助けをしてくださったと信じている。私は心からの感謝の気持ちを、タイプと印刷で助けて下さった方達に捧げたい。私はスワミがその人達に平安と啓蒙の祝福を与えて下さるよう祈るものである。

スワミが私達に望ものは何か？

スワミが私達に期待しているのは、外見的な装飾と肖像崇拜が全てだろうか？子供達が終のない不幸に打ちのめされている時、人間の両親さえ食事をとることができない。愛と無執着の権化であるスワミは、私達の彼への外的な奉仕で満足と平安をもつだろうか？どうかこのことを深く考え、神即ちスワミにあなたの奉仕を捧げなさい。彼は、自分は全ての生き物の

中にいると公然と宣言した。彼は神性リーラによって、私達に人道主義と仲間の生き物達に対する愛を養うように助言する。私達は愛情を持って犬達には食物を与えるのに、息子の妻にはそうしない。私達はカカバリ（食物）を供えるが、賄賂の金をもらわないでは書類綴りを動かさないだろう。私達は、自分達が不法な楽しみを求めて机の上の書類を引っ込めることによって、多くの仲間を苦しめていることに何時気付くのだろうか？

私達は試験でカンニングしたり、カンニングすることを奨め、厳格な監督者を手荒に扱う。私達は熱心に勉強し、脳を研ぎ澄ました真の学生まで就職できないで、後ろをのろのろ歩いていることを何時考えるのだろうか？もし私達が無数の生き物に間接的に不幸をもたらし、ゴラガムディで盛大で華やかな見せ物を用意するならば、スワミは本当に喜ぶだろうか？私達は窮した時にした誓いを果たした後は、スワミのことを忘れてよいのだろうか？私達はもし何かの問題をもたなければ、スワミのことを思い出さないのだろうか？

スワミはそのような全く心ない見せ物を見るために、ここに座っているのだろうか？彼は親切の権化であるから、子供達を自分の許に連れてきて、その心の中に人道主義を教え込むためにのみ、彼らの問題を何度でも助けようとするのである。もし私達が仲間や生き物に対する態度を変えず、頑固のままであるならば、いつかスワミは私達を私達の運命に任せるようにするだろう。その日には、誰も私達を助けてくれないだろう。彼が私達に期待する真のダクシナ（布施）は、彼がその生涯ずっと説き実行したダルマを実行することである。私達は全ての生き物の中にスワミを見、彼らの行動に慈愛をもつようにならねばならない。誠実であれ、そして、全能の神の栄光を歌いなさい。

アシュラムについて

バガヴァン スリ ベンカイア スワミのサマディ マンディールはアンドラ・プラデシュ州ネロールから15キロメートルの村ゴラガムディにある。毎日、数百の人々が彼のダルシャンを受けに集まる。土曜日毎に、数千人がスワミに敬意を表するためにこの地を訪れる。毎日3度、無料の食事が訪問者全てにふるまわれる。土曜日には、食事は12時から午後4時の間に全ての訪問者にふるまわれる。ネロールのRTCバス停からゴラガムディへは頻繁にバスが出ている。

テルグ語のスワミの伝記は7冊ある。これが他の州の人々のために英語で出版された最初の小冊子である。スワミの恩寵により私達は英語で約4

00頁の総括的伝記を出版したいと願っている。

スリ P. スッバラマイア

バガヴァン スリ ベンカイア スワミ アシュラマム
ゴラガムディ (サルベパリ経由)、ネロール地方、アンドラ・プラデシュ
州、インド

Sri P. Subbaramaiah

Bhagavan Sri Venkaiah Swamy Ashramam

Golagamudi (via Sarvepalli), Nellore Dt. A. P., INDIA

1992年

バガヴァン スリ ベンカイア スワミ

平成12年5月13日 定価300円
(2000年)

著者 P. スッバラマイア

訳者 渡部英機

発行所 日本サイババ研究会

〒799-2302 愛媛県越智郡菊間町種3145

TEL (0898) 54-3610

郵便振替口座 01630-0-35275 日本サイババ研究会

印刷所 社会福祉法人 白鳥会 東予希望の家

TEL (0898) 66-4656

FAX (0898) 76-5060

バガヴァン スリ ベンカイア スワミ

平成12年5月13日 定価300円
(2000年)

著者 P. スッバラマイア

訳者 渡部英機

発行所 日本サイババ研究会

〒799-2302 愛媛県越智郡菊間町種 3145

TEL (0898) 54-3610

郵便振替口座 01630-0-35275 日本サイババ研究会

印刷所 社会福祉法人 白鳥会 東予希望の家

TEL (0898) 66-4656

FAX (0898) 76-5060

バガヴァン スリ ベンカイア スワミ

平成12年5月13日 定価300円
(2000年)

著者 P. スッバラマイア

訳者 渡部英機

発行所 日本サイババ研究会

〒799-2302 愛媛県越智郡菊間町種3145

TEL (0898) 54-3610

郵便振替口座 01630-0-35275 日本サイババ研究会

印刷所 社会福祉法人 白鳥会 東予希望の家

TEL (0898) 66-4656

FAX (0898) 76-5060